

全国に広がるHondaの高校生交通安全教育活動 連載:第5回

思いやりの心を持つことの大切さを宇都宮地区の各高校に広げてもらう



宇都宮市内にある17校の生徒代表者60名が参加



生徒とコミュニケーションをとりながら進める座学

このコーナーでは、ホンダが全国で展開している高校生交通安全教育を取り上げている。今回は、栃木県での事例を紹介する。栃木県では、県内の各地区に高等学校交通安全地域連絡協議会を設置し、地区ごとに独自の交通安全教育を行っている。宇都宮地区では地区内の高校の生徒で構成される「高校生の交通安全を考える会」として毎年活動している。昨年11月20日、「高校生の交通安全を考える会」シンポジウムが幹事校である栃木県立宇都宮白楊高等学校で開催され、宇都宮市内にある17校の交通指導担当教諭と各校生徒代表者の約100名が参加した。宇都宮白楊高校生徒指導部交通係の井澤崇典教諭は「シンポジウムという名称ですが、高校生にとって身近な乗り物である自転車に特化し、生徒が参加体験できる内容にしています。ホンダの高校生交通安全教育の資料映像を見て、生徒たちが興味を持って取り組めるプログラムだったので、取り入れることにしました」と話す。

開会式では、宇都宮地区高等学校交通安全地域連絡協議会会長である宇都宮白



開会の挨拶を述べる宇都宮白楊高校の薄井孝夫校長

交通安全の意味と、ルール遵守の重要性を伝える

楊高校の薄井孝夫校長が「高校生は交通事故の被害者という立場だけではなく、加害者になってしまうこともあります。相手を傷つけてしまうと、苦しい思いをしながら人生を過ごすこともあります。そうしたことがないように、今日学んだことを各自の高校に持ち帰り、広げてほしい」と挨拶を述べた。

生徒は15名ずつ2グループに分かれ、実技と座学を交互に受講する。指導は本田技研工業(株)安全運転普及本部栃木普及ブロックのインストラクターが担当した。座学では、インストラクターが「交通安全とは、すべての人や乗り物が安全に行き交うことができるという意味です。そして交通安全を実現するために、ルールが存在しています。ルールを無視すると

事故につながることもあります。ありますから、常にルールを意識して、自転車に乗ってほしいと思います」と強調した。次に、運転の仕組みは「認知→判断→操作」の繰り返しであること、乾燥した路面で、前方をよく見て20km/hで走っている自転車が発見してブレーキをかけて止まるまでに何mかかるか、生徒たちに考えてもらう。「危ない」と思ってブレーキをかけて止まるまでには約6m進みます。そして、ブレーキが効き、止まるまで約3m。合わせて約9mかかることになり、急に何かが飛び出してきた時に対応するためにはスピードを控えることが大切なのです。続いて、交通事故の加害者となってしまう場合、高校生でも賠償責任を問われることを、具体例を挙げて説明した。

思いやりの心をも身につけるための教育

実技は「反応回避」と「8の字走行」。「反応回避」では、両手に旗を持つ先生に向かって自転車を走らせ、先生が上げた旗と逆方向に回避する。旗を確認して判断するのにかかる時間、とっさの時には自分が思うように回避できないことを生徒に実感してもらう。

「運転においては目から多くの情報をとるので、脇見をせず、よく観察することが重要です。また、片手運転をしていると、適切なブレーキ操作ができないので携帯電話を持ちながらの運転や傘さし運転はやめてください」とインストラクターがアドバイスした。「8の字走行」は直径8mの円を並べたコース内を自転車15台で走行する。コースに入る台数が増えるに



「8の字体験走行」を通じて、相手の動きをよく観察することや、お互いに譲り合うことが安全であることを気づいてもらう



「反応回避」では先生が上げた旗を確認したら逆方向に回避する

つれて、8の字の交差する箇所まで自転車が止まってしまふ。インストラクターは生徒を集め、どうすれば全員がスムーズに走れるかを考える時間をつくる。他の自転車の動きをよく観察すること、思いやりをもって譲り合うことの大切さに気づいてもらうことがねらいである。最後にインストラクターが「皆さんには自分自身が安全運転を実践するだけでなく、それを友人や家族に教えてあげることが出来る人間になっていただきたい」と締めくくり、シンポジウムは終了した。

参加する生徒の様子を見守った井澤教諭は「実際の交通場面での相手は、自分が知らない人たちがばかりです。異なる高校の生徒同士による8の字走行は、知らない相手に思いやりの心を持つことの大切さを学ぶ良い機会になりました」と感想を語った。

※宇都宮地区「高校生の交通安全を考える会」シンポジウム参加校＝宇都宮高等学校、宇都宮東高等学校、宇都宮南高等学校、宇都宮北高等学校、宇都宮清陵高等学校、宇都宮女子高等学校、宇都宮中央女子高等学校、宇都宮白楊高等学校、宇都宮工業高等学校、宇都宮商業高等学校、作新学院高等学校、文星芸術大学附属高等学校、宇都宮文星女子高等学校、宇都宮短期大学附属高等学校、宇都宮海星女子学院高等学校、県立聾学校、県立富屋特別支援学校

熊本県立翔陽高等学校「交通安全研究推進校 発表会」

熊本県の各高校ではHondaと行政、各学校との体系的な交通安全教育活動が2年目を迎えている。その1つである熊本県立翔陽高等学校では昨年11月12日、熊本県教育庁、PTA教育振興財団、熊本県学校保健会、大津警察署ならびに県内の高校指導教諭ら52名が出席し、学年ごとの公開授業、研究発表などが行われた。

公開授業は、1年生が通学路ヒヤリマップを作成。2年生の自転車利用危険予知トレーニングでは、グループ単位で危険箇



所の写真を事前に撮り、それをもとにどのような危険が潜んでいるかを議論し、発表した。3年生を対象にした座学では今後、自動車免許を取得する中で、交通社会人としての必要な知識や意識について、本田技研工業(株)安全運転普及本部熊本普及ブロックのインストラクターが説明した。

同校では、平成24年度にHondaによる高校生交通安全教育を取り入れ、そのノウハウをもとに平成25年度からは生徒指導員として養成した3年生が2年生の原付通学者



へ定期的に安全運転指導を行っている。研究発表ではこうした取組みが紹介された。また、生徒指導員5名が活動の成果を発表。「自分が身につけた安全運転を下級生へ伝えていきたい」「校風として伝承していきたい」と、生徒から生徒への手渡し交通安全を実践することの意義を語った。